



新  
版  
繪  
入

世  
間  
娘  
容  
氣  
五

遠  
658  
54



好文堂

世百娘形象五之巻

目録

子息家貨追加

入少袖素とまねる山雀娘

又姉編けと佛ともゆ奥座此言主

有これ重産の年一而七礼程と云揚徳

能方より此形見の金並そとる海子集



通 3  
門 653  
號 5  
卷 5

明治三六年  
九月十一日  
購

只誠藏

世娘  
五之巻

借米乃無性うりのよりか洗娘

軍奉行へ乃お尋ねふまうらう今に奉書奉  
貸家此らもまはせう借米をまひ地獄  
娘う不孝今七さひ身とれ米倉のけけ口  
吾も同業れ洗うらうい嫁がらを

嫁入少袖つまをまねる山雀娘

去りの日みふとたもひとて二世と變り一夫の死せ  
けらゆ存よ命とそんと魚目一女房と個の仲にもや欲  
とらあつてかく方れ敷ふらとらうわらふ又由縁が別れ息  
と引とぬうちありはまけせんきと耳よりけま死人乃身を  
まにたぬらうとらう。六二門より似合あ入縁とる事。いふ小  
ぬらうもやみの事いおまる。後埋一屋にたき信書花もい  
かろてあせう。二十女房のまきまけ。ちとあひびくは薄白粉  
髪いあう。ゆきまう。さう。踏む。と。ち。ち。け。る。下。さ。り。定  
ま。く。ま。せ。上。ま。ま。さ。ら。の。少。袖。目。よ。う。ら。う。と。ら。う。あ。く。さ。お。け。し  
お。り。う。い。ま。ま。を。祝。い。と。ら。う。た。お。借。の。は。る。ま。松。を。た。は。せ。と

野々ふりりして朝のあけよめたるまはれけりまゝ人まゝのん  
 と縁着座ふれ衣裳きらきらとせしめぬおるい天書と  
 おぬまよといふまゝ今さら神のふしをいふもさげらぬ  
 何ぞおそれるまゝのさしめぬさしめぬ人け中よそおき  
 ちくちくけりし世の中よ花氣りぬ男とほあそび  
 まにまに掃ちりしおの寺まのりてせうけ縁敷のまふおぬ  
 御るれわつらに米屋の儀たまはる家とそその年まよ利  
 萬般儀せしめとておぬとてつらなる見事け子たて書育  
 ちておぬひまよとていへるまゝとて下女下人と同じるま  
 ちておぬまゝ死るれく十二のまはれまはれと採とてふれか  
 よびけそまのまゝとておぬい見儀せとえ振を親乃るま

あつたあ儀も馬とよびて公果とまをりせむりまのり重振も  
 たまうくおぬまのりやうまの儀入るまをいらいと娘おぬ  
 と縁よ付らうらゝるまままどれぬまの儀人婦よほり身よ  
 と上座のたをけわつらと種とあは娘と女をたといふと相二  
 と信せれよのみを種と花をりよと精町の乾物屋の与吉郎  
 ちりよ仲人まゝとていひかれ親の人から身とけうかある内  
 儀まて弟はるおの儀の縁と信びこのまをかりて若月親果  
 娘とちりぬよ吉郎の元來おぬひけぬる女あるれ世界まは  
 果報ふものおぬいと万事とやめくおぬの形とるあて所時を  
 儀とるぬままらつめくままきれまらとてまらぬ一  
 門にぬれいびまらぬ振舞の儀ま吐血とてよの愛仲にるて

母の身は女を泣きまじりては世よりぬあまの浦に身を  
 害をもとむればなり。二門は母の親とあてし。まは夜に  
 て二月もつたればは家よりまじりてみとるははたし  
 るて親親をまじりて配南志く身代をけるわははた  
 もだまをわたりぬ西とあまの浦あまの親里とどぬ。  
 廿三日もははたのふたのそとつる母親の始をば家より  
 母の心は世よりまじりてまじりぬあまの浦とあまの浦に  
 是ぞはりの松町の魚屋去る由死なれは春西よりまじり  
 是ぞまじりぬ裸でぬまじりてまじりぬあまの浦に  
 まじりぬあまの浦とあまの浦とあまの浦とあまの浦と  
 此れは母の心は世よりまじりてまじりぬあまの浦に  
 此れは母の心は世よりまじりてまじりぬあまの浦に

の流もつとひひけりては世よりぬあまの浦に身を  
 害をもとむればなり。二門は母の親とあてし。まは夜に  
 て二月もつたればは家よりまじりてみとるははたし  
 るて親親をまじりて配南志く身代をけるわははた  
 もだまをわたりぬ西とあまの浦あまの親里とどぬ。  
 廿三日もははたのふたのそとつる母親の始をば家より  
 母の心は世よりまじりてまじりぬあまの浦とあまの浦に  
 是ぞはりの松町の魚屋去る由死なれは春西よりまじり  
 是ぞまじりぬ裸でぬまじりてまじりぬあまの浦に  
 まじりぬあまの浦とあまの浦とあまの浦とあまの浦と  
 此れは母の心は世よりまじりてまじりぬあまの浦に  
 此れは母の心は世よりまじりてまじりぬあまの浦に



といふゆゑに髪を剃りて中法を修むのよしとあせねば後法自ら穿  
 鑿する所一家の因はなかりとあつたときお母の命をうけて姑  
 乃身の子に生すまらるる事ありとて家お焼の法合をお極  
 とららぬとすぬ人はほ家とせせげ子の娘をよとる事をも  
 ひ業ひりしとす。あれがごとく持するれとて七月の夜を  
 かへくぬ人をもまをも疾くかじと親親お焼志く腹をさ  
 たし男子ありとも母子ともささくはる方をも成人とらるるも  
 つらとて下さばと。根又女同嬢姪のあつたに付て信のひり  
 りく黒くせの母のほ家せん方をも又もあは平産をせげ子  
 小も乳母とらるるや一もひびせん乾物とせもあつたものと  
 兄弟ありてととてと。花の盛れお言さよひひとりありて

抱ゆるもいふ考くせのむりや。後方考てはなるあとの  
 男小らりる事ありわくたむのうん夫まの着死志をむるひ  
 乃西平まきに世界へむり。娘れとくまらるるまらるる  
 骨やと肉はつと鬼麻毛のやうか信の町の綿衣のむらさ  
 痛めとて英のあともさうくお子れけら又書とせねる肉はとら  
 りの赤葉といふもの由葉れお言さつたあは暈のせうらまもく  
 名三骨八とて後つらあお老まとも身とよけといふ事とあ方  
 は信じて。まをささるるれよひむらう二親の信是とくさるるど骨八は  
 おもあまてしをさゆはゆ庄人信居せるる法合事骨八三親  
 かあひその一日と宿よのひの親をわらうとてぬく笑見せるる伏  
 中く耳へも入とげつと送つと始ありききくかまら。今かを笑ん















報どく。うれやまも。元は志と丸固を。嫁のめを。さく  
 ころころ。れし。御を。骨。あつ。修。えん。く。神。さ。ひ。て。か。る。も。さ。し。た  
 嫁の。め。さ。つ。相。も。く。と。儼。一。周。より。出。た。れ。い。ま。の。く。も。さ。た。れ  
 て。お。り。り。と。秋。の。ゆ。ら。と。ま。し。く。て。か。る。只。今。女。界。の。う。ら。ま。さ。し。た。又  
 ころり。首。射。掛。を。洞。と。れ。く。さ。あ。つ。の。娘。と。あ。る。ふ。は。嫁。の。心  
 入。り。と。さ。の。肝。は。多。く。て。何。と。後。入。と。ま。さ。ま。と。さ。ひ。と。さ。う。さ。さ。り  
 小。志。の。と。賊。布。の。口。と。あ。け。く。後。部。費。と。お。判。ま。あ。つ。ふ。ま。り。せ  
 け。嫁。の。ま。さ。さ。う。と。り。ひ。ま。と。く。ゆ。り。の。考。あ。つ。も。よ。え。れ。お。う。う。さ。前  
 を。清。く。さ。ち。よ。ひ。と。ま。れ。お。ま。兼。例。子。の。り。仕。合。て。ま。ゆ。り。賞  
 を。り。と。く。く。清。く。て。さ。ん。れ。清。也。町。の。つ。と。ま。を。つ。と。お。費。ま。あ  
 日。暮。羽。志。く。利。是。お。と。人。自。分。持。り。は。清。也。人。お。人。お。り。よ。い。い

報どく。うれやまも。元は志と丸固を。嫁のめを。さく  
 ころころ。れし。御を。骨。あつ。修。えん。く。神。さ。ひ。て。か。る。も。さ。し。た  
 嫁の。め。さ。つ。相。も。く。と。儼。一。周。より。出。た。れ。い。ま。の。く。も。さ。た。れ  
 て。お。り。り。と。秋。の。ゆ。ら。と。ま。し。く。て。か。る。只。今。女。界。の。う。ら。ま。さ。し。た。又  
 ころり。首。射。掛。を。洞。と。れ。く。さ。あ。つ。の。娘。と。あ。る。ふ。は。嫁。の。心  
 入。り。と。さ。の。肝。は。多。く。て。何。と。後。入。と。ま。さ。ま。と。さ。ひ。と。さ。う。さ。さ。り  
 小。志。の。と。賊。布。の。口。と。あ。け。く。後。部。費。と。お。判。ま。あ。つ。ふ。ま。り。せ  
 け。嫁。の。ま。さ。さ。う。と。り。ひ。ま。と。く。ゆ。り。の。考。あ。つ。も。よ。え。れ。お。う。う。さ。前  
 を。清。く。さ。ち。よ。ひ。と。ま。れ。お。ま。兼。例。子。の。り。仕。合。て。ま。ゆ。り。賞  
 を。り。と。く。く。清。く。て。さ。ん。れ。清。也。町。の。つ。と。ま。を。つ。と。お。費。ま。あ  
 日。暮。羽。志。く。利。是。お。と。人。自。分。持。り。は。清。也。人。お。人。お。り。よ。い。い



ぬきまをせめても御く。御方うらぬおきりなりと母の死  
りよまわつと。冬も本深れと。あけひとつ。悪く。まよわん  
かされて。その孔。今とつ。うら。子。悪。あう。と。あ。渡。側。の。納。金  
れ。ひ。う。ら。と。あ。く。は。ま。の。神。を。ひ。う。て。松。又。つ。ふ。徳。の  
切。賣。ふ。若。乃。芽。れ。と。て。お。ん。と。も。志。を。の。か。年。を。入。あ。く。  
う。り。種。を。て。お。ま。う。ら。あ。ま。あ。く。乃。芽。や。う。と

世万娘気質又之巻 終





